

3-3 教育・学修機能の高度化等に関する情報システムの研究、推進

<事業計画>

学修ポートフォリオに求められる役割・機能を整理し、導入のメリットとデメリットを明確化した上で大学としての課題及び対応策を考察する。その際、学生に正しく記録させるための仕掛けと動機づけの工夫、教員及び職員の参画を促進・普及させる戦略やIR（大学自己診断調査）の一環としてeポートフォリオシステムのイメージを整理する。

<事業の実施結果>

「大学情報システム研究委員会」を継続設置し、学修ポートフォリオについて研究を開いた。

大学情報システム研究委員会

平成26年9月17日、11月20日、平成27年1月20日、3月20日に平均6名が出席し、4回開催した。以下に、昨年度より継続して研究を開いている学修ポートフォリオの検討状況を報告する。

(1) 研究の進め方

25年度に中間まとめをした「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて」の提言を踏まえ、共通理解の促進策について今後検討すべき内容及び検討の進め方などについて整理した。検討内容として、「学修ポートフォリオの導入に向けた検討事項」、「学修ポートフォリオデータの活用に向けた検討事項」、「学修ポートフォリオシステムの運用に向けた検討事項」、「学修ポートフォリオを組織的に持続・発展させるための検討事項」の観点から優先順位を設定して進めることにした。

26年度は、導入に際して留意しなければならない検討事項として、シラバスを通じての呼びかけの工夫、学修をモニタリングするワークシートの構成、学士力の獲得に不安を抱える大学としての支援体制、ポートフォリオデータの活用に向けた検討事項として、教員からのコメントをフィードバックする留意点を中心に以下の①から④について優先することにした。なお、⑤以降については27年度以降に研究することにした。

- ① 学修ポートフォリオに取り組む必要性をシラバスで説明するモデルの例示
- ② 学士力の修得状況を自己点検するためのワークシートの構成と例示
- ③ 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点
- ④ 振り返りに対する教員のコメントをフィードバックする際の留意点
- ⑤ 授業の有効性を確認する方法のモデルの例示
- ⑥ 教職員の意識変革を推進する取り組みの例示
- ⑦ 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組みの例示
- ⑧ 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減の教学マネジメントの課題
- ⑨ ガバナンスの理解を得るための方法の例示
- ⑩ eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理
- ⑪ eポートフォリオシステムを運用管理する留意点の整理
- ⑫ eポートフォリオシステム導入事例の紹介と課題の紹介

(2) 研究の概要

以下に研究状況及び成果のとりまとめについて報告する。

① 学修ポートフォリオに取り組む必要性をシラバスで説明するモデルの例示

学生に学修ポートフォリオに取り組むことの意義や重要性を教員各自が担当する授業を通じて呼びかける努力が必要と考え、ポートフォリオを通じて教員と学生の信頼関係を醸成できるようにする工夫として、「授業で獲得できる能力を社会生活との関連の中で明確にする」、「毎週の授業を振り返ることで次週に向けての学びの準備ができるようになり、社会人に求められる振り返りのキャリアが身に付けられることを気づかせる」、「教員目線よりも卒業生、在学性による学生目線での呼びかけが効果的で、文章表現に加えて音声・映像の活用が効果的である」など配慮すべき点を検討した。その上で、例示として「卒業生からの声」、「2年生からの声」を掲載することにした。なお、当初教員からの30秒程度の音声での呼びかけの例示を準備したが、授業の種類や形態に配慮し例示はとりやめた。

② 学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの構成と例示

学修行動をモニタリングするためのツールとして、学生に学びの状況を真実に照らして書き込ませるワークシートが不可欠であることから、学びの段階に応じたワークシートを設計する必要があるとして、「授業の進み具合を点検するワークシート」と「学修達成度を確認するワークシート」の2種類について書き込ませる内容の要素を検討した。

授業の進捗状況を記録させるワークシートでは、授業期間中に複数回行う中で「学修時間の記録」、「学んだ内容の記述」、「獲得した知識・技能の応用や社会課題等との関連づけの記述」、「主体性の獲得状況を自己やチームの評価を記述」させるとともに、ワークシートについてファシリテータ、教員からの意見をフィードバックできるようコメント欄を設けておくことの必要性が確認された。

授業期間終了後の学修達成度のワークシートでは、単位を取得しても卒業までに学びを活用できる自信の有無、社会で活用できる自信の有無を正直に記述させるようとする。また、アクティブ・ラーニングのコンピテンシーが身に付いているか、次に向けた学びの目標を記述させるなどを整理した。

③ 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点

ワークシートを通して学生が抱えている不安や問題が明らかになることを想定して、大学として個々の学生に応じた学修支援の仕組みを整備しておく必要がある。学修ポートフォリオを導入する際に学生が安心して学びに向き合えるよう、組織的な検討が急がれるとして、基礎学力不足、知識理解不足、友人がいないなどの人間関係の悩み、各種の障害に応じたキメの細かい支援のタイプ別に支援方法を整理した。

④ 振り返りに対する教員のコメントをフィードバックする際の留意点

学修ポートフォリオを学生に積極的に利用させていくには、振り返りに対して教員のコメントなどのフィードバックが不可欠であるが、コメントの内容や方法・タイミングについては学生個別や学生全員に対応する場合、授業期間中又は授業期間終了後に対応する場合、大学全体でコメントとしていく場合などがあることから、FDの課題としてとりあげる必要がある。とりわけ学生との信頼関係を維持・継続できるよう、担当する授業で工夫できる内容であれば迅速にネットなどで対応することが望まれる。しかし、担当授業以外の問題については、関係教員、関係部門との意見交流や調整などすぐに答えられない場合には問題の重要性の認識にとどめるなどの工夫が必要であるとした。以上その他、授業改善など意見を述べた学生が不利益を生じないように配慮するとともに、ポートフォリオの内容が他者から安易に閲覧できないよう情報共有の範囲・基準を検討し、整理した。

以上詳細は、「学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策」として以下に報告する。なお、ワークシートの紹介は割愛しているため事例についてはWeb (<http://www.juce.jp/info-system/pdf/eport02.pdf>) を参照されたい。

学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策

1. シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫

ポートフォリオを導入している大学の課題として、導入1年目は比較的多くの学生が書き込みに参加するが2年目以降は減少傾向にある。その要因として、一つは、大学のオリエンテーションなどの機会を通じてポートフォリオの意義・役割、重要性について説明をしているが、学生はもとより教員、職員にも十分理解が得られていない。二つは、授業の中でポートフォリオを用いて最良の教育を提供していくという教員側の真剣な気持ちが伝わっていない。三つは、学生がポートフォリオに参加しても教員側からの的確なコメントなどのフィードバックが十分でないことがあげられている。

課題解決のためには、学士力を獲得する上で教員と学生の双方が信頼関係を醸成し、学生一人ひとりの学びに教員が的確に対応できるようにする仕組みが必要とされる。

学修行動を的確に把握するには、事前・事後学修の状況、教室授業の状況、学修上の不安や悩み、授業目標で掲げる達成度を真実に照らして自己点検・評価させることが、学士力を達成する上で大変重要であることをシラバスで気づかせることが必要である。その際、学生に自己点検・評価を通じて学びの振り返りの重要性を理解させ、習慣づけられるようにすることが肝要である。

それを効果的に行う手段として、振り返りを記録・蓄積して自己の判断や行動の適切性を分析するポートフォリオの活用が有効である。また、教員には、学力不足の学生には学びの不安の解消、優れた学生には発展的な学修の提供など学生一人ひとりに応じた学びを支援する手段としてポートフォリオの活用が不可欠となる。

教員側の真剣な気持ちを伝える方法として、例えばシラバスの中で振り返りの重要性を文章表現しただけではインパクトが弱いことから、映像や音声により手短に臨場感ある形のマルチメディアで公開することが効果的と考える。学生目線に訴えられるようになることが肝要であり、実際にポートフォリオに参加した学生の意見を踏まえて呼びかける方法や学生の声を直接紹介するなどの工夫が考えられる。

※ 以下に映像や音声を用いた語りかけについて、教員として配慮すべき点を掲げるのを参考にしていただきたい。

- * 授業科目でどのような能力が身に付けられるのか、学士力の中での位置づけを明確にする。
- * 毎週の授業でどのような能力、知識を身につけることができたのかを自己点検・評価することが大切であり、振り返ることで次の週の学びに向けて、学生はどのような学びの準備をしなければいけないのか気付くことができるなどを説明する。
- * 振り返りは、社会人になって生涯にわたって様々な課題に向き合うときに、どのように判断し、どのように行動したらよいのか、考える手助けになるとともに人格形成にもつながることを説明する。
- * 心の中に刻み込んで問題意識を持ち続けられるようにすることが大切であるが、そのために習慣づける手段として振り返りを記録することを通じて、学生自身が「できるようになったこと」と「できなかったこと」、授業や事前・事後学修での取り組み姿勢などについて気付くことができるなどを説明する。

※ 次に学生からの語りかけの事例を掲げるのを参考にしていただきたい。

【卒業生からの声】

大学院を卒業して社会人となり5年目を迎えるようとしていますが、会社でも年間の行動目標などを自ら設定し、上司に評価を受けるという大学の「学年末の達成度自己評価」と同じような機会があります。目標の設定や過去の反省は面倒で、意味のないものに感じるかもしれません。しかし、今の課題に対して目的や目標を明確にせず、受け身の姿勢で取り組んでは、面白みもなく自分自身の成長もありません。また、反省を

しなければ同じ失敗を繰り返したりして、意欲も薄れてしまいます。「一週間の行動履歴」や「学年末の達成度自己評価」は、自身を振り返り目的を持って主体的に物事に取り組むためのきっかけとなります。自ら進んで取り組むことで、新しい発見や楽しみが増えてくると思います。

【2年生からの声】

1週間の行動履歴や達成度評価ポートフォリオの作成を通して、日々の生活の見直しや改善、1年間の自己の成長を知ることができた。1週間の行動履歴では、1週間に行った学習や部活動、アルバイトなどに費やした時間を入力した。そのことにより日々の時間の使い方や学習や部活動、娯楽の時間のバランスなどを振り返ることができた。またそれらを考慮し次週の目標を設定することで、より有意義な1週間を送ることにつなげられた。達成度評価ポートフォリオでは、各科目的学生が達成すべき行動目標に対する反省を行うことができた。複数ある行動目標のそれぞれの観点からその科目を振り返ることで、達成できた点やできなかった点、その理由や改善点を明確にすることはできた。また、それによって次学期の学習目標について考えることができた。これらのことから、1週間の行動履歴や達成度評価ポートフォリオの作成は、自身を見直し今度の目標、課題を考え学生生活をより充実させていくことにつながった。

2. 学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの構成と例示

学生の学修行動をモニタリングしていくためのツールとして、「授業の進み具合を点検するワークシート」と「学修達成度を確認するワークシート」が必要となる。本来は全ての授業科目でワークシートの活用が望まれるが、学修ポートフォリオを導入する初期段階では学生や教職員の負荷を考慮し、当面は必修科目に限定することが得策と考えられる。

「授業の進み具合を点検するワークシート」では、授業の進捗状況に応じて学びの動向を仔細に点検できるように授業期間中に複数回行う必要がある。その際、基礎学力を測る汎用的な能力の修得状況について学修期間の前半に行うことが望まれる。修得状況に問題がある場合には改めて特別の学修支援プログラムを設ける必要がある。

「学修達成度を確認するワークシート」では、授業期間終了後に到達目標が達成できたか否か、単位を取得した場合でも到達度の能力を活用できる自信があるか否かを内心に照らして表現させることで、大学として質保証に向けた学修支援を徹底することが望まれる。

以下にワークシートに記載することが不可欠な要素について網羅的に掲載した。要素の組み合せ及び追加などを行い授業の形態や目的に応じたワークシートを検討・作成されることを希望する。

「授業の進み具合を点検するワークシート」の要素

* 学修時間の把握

例えば、個人・チームでの事前・事後の学修時間を記録させる。

* 知識・技能・態度の確認・定着

例えば、教員側から知識・技能・態度の範囲を指定し、授業で学んだことや気付きなど修得した内容を自分の言葉で記述させる方法、技能・態度のCan Doリストで達成度を点検させる方法などで記録させる。

* 知識・技能の活用と知識の創造

例えば、提示した課題についてレポートを提出させた上で、獲得した知識・技能を用いて社会や組織の課題との関連付け及び応用の可能性について考察ができるか否か、知識の統合化による考察ができるか否かを記述させる。

* 自主性及び主体性の確認

例えば、事前・事後学修を行っているか記述することで自主性の有無を確認

させるとともに、次の学修行動に向けた準備を記述させるなど主体的な行動の有無を自己点検させる。また、チームで学修している場合には、考察プロセスの中で学生個人がどのような役割を果していたか、相互に協力して考察することができたか否か、多様な意見を取り入れて考察することができたか否か、チーム内外での相互評価などを記述させる。

* ワークシートに対するフィードバック

例えば、上級学年生などによるファシリテータからのコメント、担当教員からのコメント欄を設けておくことが必要である。

「学修達成度を確認するワークシート」の要素

* 授業の到達目標に対する達成状況

例えば、単位を取得した場合でも学修到達目標の能力を卒業までの学修段階で活用できる自信があるか否か、卒業した後で活用できる自信があるか否かを正直に記述させる。

* 主体的な学修行動の確認・定着

例えば、失敗・成功した学びの経験を記述させた上で、学士力の獲得に向けた次の学びのデザインを考えさせ、行動目標を記述させる。

* ワークシートに対するフィードバック

例えば、担当教員からのコメント欄を設けておくことが必要である。

3. 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点

学修ポートフォリオで学生に学修の達成状況を真実に照らして記述することを求めているが、達成が思わない学生には大学として何らかの個別指導を行う仕組みを整備し、学生が安心して学びに向き合えるように学修支援の仕組みを構築しておくことが必要不可欠である。

学生一人ひとりの不安や悩みを把握し、必要に応じて面接を行うなど、組織的な対応をめざして情報共有を促進する必要がある。それには教員同士による連携体制の構築、ファシリテータによる助言などの仕組み、教職員一体となって取り組むための全学的なプランの策定などの整備が必要となる。

学生一人ひとりの学びに応じた支援として、「基礎学力不足」、「知識理解の不足」、「人間関係の悩み」、「各種障害」など、学生が抱える不安や悩みのタイプに応じた対応策を大学として備えていることが前提となる。例えば次のようなことが考えられる。

* 基礎学力が不足する学生には、例えば、大学として補習授業を提供し、授業目標が達成できるようファシリテータと担当教員との連携によるきめ細かな助言・指導が必要となる。

* 知識・理解が不足する学生には、例えば、学内ネット上の授業録画による学び直し、eラーニングによる個人学修の徹底、ファシリテータの助言などの仕組みが必要となる。

* 友人がいないなど人間関係に悩みを持つ学生には、例えば、上級学年生から学内ネット上で励ましや学修相談を行い、その対応状況を大学が特定する教員・職員・ファシリテータで共有し、連携して対応策を考え、孤立させないように支援する仕組みが必要となる。

* 発達障害などの学生には、例えば、大学としてや心理カウンセラーなどの専門家によるアドバイスによる指導を行い、学生に応じた支援方法を提供することが必要となる。なお、障害の程度によりチーム学修が困難な学生には、学内ネット上の学びの仕組みを通じてチーム学修に参加できるようにする必要がある。

以上の学修支援を効果的に進めるためには、教員・職員としての職務規範を充実し、全学あげて学生一人ひとりが安心して学修を受けられるよう、FD・SDの研修を徹底する必要がある。

4. 振り返りに対する教員のコメントをフィードバックする際の留意点

学修ポートフォリオが持続的に使用されない大きな要因の一つとして、学修記録の内容や振り返りに対して教員が速やかにコメントなどのフィードバックをしていないことが指摘されている。フィードバックが行われていない状況として、コメントの表現をどのように考えるべきか、速やかにフィードバックすべきか否かタイミングなどの問題がある。このような現状認識に立ち、コメントの内容について、学修者一人ひとりへの対応と学修者全員に共通する対応、授業期間中に対応できること授業期間終了後の対応、大学全体で対応すべきことなどを踏まえて検討する必要がある。

以下にコメントの表現・タイミングを想定した対応の留意点について整理したので参考にしていただきたい。

- * 授業期間中でのコメントの仕方としては、授業で工夫できる内容であれば学修者全員にネットで周知し、教員と学生との信頼関係をできるだけ早く築くようにすることが重要である。学修者一人ひとりが抱える不安や悩みへのコメントは、例えば基礎学力が不足する学生、知識・理解が不足する学生、友人がいないなど人間関係に悩みを持つ学生、発達障害などの学生に応じて担当教員として助言できるか否かを判断した上で、対処方法を案内することが望まれる。そのようなケースタディに応じた対処の仕方については、教職員一体となってFD・SDなどで検討していくことが必要であろう。
 - * 授業期間終了後のコメントの仕方としては、他の授業関連科目との調整、授業方法・シラバスの再構築、対話学修・体験学修・ICTを駆使した学修など授業環境の整備、ファシリテータによるきめの細かい学修支援の整備などの課題が想定されるので、学生には問題の重要性を認識していることについてフィードバックする程度に留めておくことが適切と考えられる。
 - * 大学全体でのコメントの仕方としては、すぐにコメントを返すことができないので、問題の重要性に応じて大学としての課題となることを教員個人の気持ちとしてフィードバックすることが望まれる。しかし、財政・教育政策・組織の再編・構築に絡む時間のかかる問題への対応は、組織的な課題であるとのコメントに留めておくことが適切ではないであろうか。
- 以上のコメントのフィードバックに際して教員が配慮すべきこととして、学修ポートフォリオで意見を表明した内容が学生の不利益にならないように予めシラバスの中で明示しておくなどの工夫が望まれる。また、ポートフォリオの内容が他者から安易に閲覧できないようにするため利用できる範囲や権限について学内で十分に検討し、判断基準を設けておく必要がある。